

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	近所の人たちへ行事参加に誘う機会を増やしたい。ホームの様子を知っていただきたい。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>役場や社会福祉協議会の依頼で介護に悩んでいる方々の相談を受けアドバイスをし、報告を行っている。</p>	○	<p>介護について気軽に相談できる所であることをアピールしていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>評価の結果を、職員会議や運営推進会議で話し合い積極的に改善するように努力している</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議には退所されたご家族の方にも参加してご意見を頂き、会議の内容については、職員会議で話し合いサービスの向上に生かしている。</p>	○	<p>運営推進会議に管理者だけでなく他の職員も参加できるようにしたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>質問や相談事があると直ぐに電話や窓口で相談をさせていただいています。特に転倒や病気・病状について報告相談させてもらっている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>入所と同時に権利擁護事業を利用について包括支援センター、家族、権利擁護事業担当者と何度も会議を行い利用に至った利用者様もいらっしゃいます。その後も関係機関と密に連絡をとり話し合い買い物等の金銭管理の支援を行っています。また、研修会に参加して学習しています。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会等で学んだ知識を全職員に広め、声を掛け合い常に防止に努めています。手足など身体にアザがある場合の原因を明確にして家族に報告を行っています。</p>	○	<p>今までも拘束も行っていないが、言葉使いについても今後一層気をつけていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时に施設の概要、利用条件の説明を行い納得して頂いた上で申し込みをお受けし、契約の際に重要事項説明時に更に細かく説明を行い話し合っって納得をしていただけるように図っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの意見、要望はその都度職員に伝え(申し送り簿・口頭)、施設長(理事長)にも伝えて対応を行っている。必要に応じて職員会議で取り上げている。ご家族の面会時にも伝えて相談を行う。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に介護日誌、生活記録等を閲覧してもらい、健康状態や暮らしぶりを都度伝えている。必要に応じて、電話で伝えている。定期的にケアプランについて相談説明をおこなっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気作りに留意し、苦情や意見等を聴くようにして、全職員で話し合い、運営に反映させている。管理者が苦情対応窓口、行政機関等の受付先も文書で明示している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で討議を行い反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の予定(都合)や行事に合わせた勤務表を作成している。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に馴染んでいただけるよう入職前からボランティアに2～3回来てもらい、入職時には利用者や職場のオリエンテーション・施設内研修を行う。職員間のコミュニケーションを大切にしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員順番に研修を受けてもらっている。資格取得を勧めておりその為の研修は参加し易いように勤務を配慮している。	○ 更に研修の機会を増やしていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と情報交換、事例検討等で活動を充実させ、サービス向上に役立っている。	○ 他のホームを見る事で、自分のホームを客観的に見ることが出来る。良い勉強会になり、レベルアップにつながる事を期待。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間でこまめに話し合い、ちょっとした時間でも話しに乗る事がストレス発散になるので、常時耳を傾けるようにしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員会議の場で個人の努力や実践等について誉めたり励ましたり御礼を述べ、各自に向上心を持っていただけるようにしている。	○ 他の事業所との相互間研修を利用して外部者と接する機会を作り、自分を振り返る機会を作りたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学相談に来所された時に、ご本人に、困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴き取り今後どうすればよいかなど提案させてもらい、気持ちが明るくなるように話し合いご本人の気持ちを受け止めるように努力している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学相談に来所された時に、ご家族からこれまでの経緯を伺いながら(事前に紹介ケアマネージャーから情報を得る)、困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴き取り、何故そうなのかなどを話し合い対応方法を話し合っている。1回だけでなく、時には電話でも相談に応じ納得がいくまで話し合い信頼関係を築けるように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学相談に見えたとき充分に面談を行いその時まず必要としている支援を見極め他のサービス利用も含めた対応を行っている。面談後担当ケアマネージャーに報告を行っている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学相談時にご本人にも来ていただき、見学したり、すでに入所されている人たちお茶を飲んだり、レクリエーションに参加していただくなど雰囲気を知ってもらえるように働きかけている。その方の生活歴・病歴を充分把握して対応します。デイサービスや行事への参加を勧めている。	○	いきなり入所になるケースが多いが、何回か通って頂けるようにしたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に職員が支援するより利用者の発揮できる活躍の場として得意なこと、できること一緒に行う中で支えあう関係を築いている。洗濯たたみ・掃除・野菜の皮むき・お茶だしなど、無理のない範囲で見守りのもと、行っていただいています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	理念の「本人・家族・職員の三身一体のケア家族と職員共に本人を支えていく」ことを納得・協力していただけるよう努めている。夏と冬の衣類の入れ替えを家族が来所し利用者で行います。レクリエーションや散歩などにも参加されています。必要に応じて泊まっていたりなど、ご協力頂いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事にご家族を誘い快く参加していただいています。通院時には外食をしたり、墓参りや泊まりなど自由に行き来し共に過ごせる時間を作って頂いている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が逢いたいと思う気持ちを大切にしてお客様に来て頂けるようお願いをしている。自宅や馴染みの所へも、連れて行って頂けるようお願いしている。八幡様の祭りなど地域の馴染みの場所に出かける支援は大切にしている。	○	もっと機会を増やしたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ホールのテーブル席はご本人の意向と相性の良さを考慮して決めており席は職員が間に入って、調整・支援を行っている。些細なことでも、情報は全員で共有する。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	運営推進会議の委員をお願いして、意見を頂いている。入院・入所先に面会に行ったり、ご家族に会ったときには、様子を伺って相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族にご協力を頂き「私の生活史・私の暮らし方シート」を作成し、それを基に検討・把握に努めている。面会時にも今の状況を伝えながら過去にあったことを引き出し、本人の思いや意向の把握を探っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式をもとに把握に努めている。1回伺うだけでなく、時間を置いているいろいろな人に伺っている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	介護記録は時系列にして記録しており、申し送りで伝え職員間でこまめに話し合い、好みや、心身の状態の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日ミニカンファレンスを行い課題解決に向けて検討を行う。会議の時にもカンファレンスを行っている。必要に応じて家族と関係者に来ていただき話し合いの場を持ち検討を行い課題を残さず対応するように努めている。	○	カンファレンスの機会をもっと多く行いたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しを行っており必要が生じた時には日常的にこまめに話し合い検討をおこない、ご家族に説明相談して変更を行っている。	○	必要時に直ぐにプラン変更した計画書の作成につとめる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は時系列にして記録しており、気づきや結果はミニカンファレンスで話し合い記録を行い、申し送りで伝え把握に努めている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の人の介護の相談も応じている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の方には運営委員でお世話になり、消防署所や警察(交番)にお願ひに行き、警官が施設を見に来てくださり、行方不明者の届け方等の指導をしていただいた。地域のボランティアによる演奏会や町内の祭り参加などレクリエーション支援として活用している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入所後も担当ケアマネジャーに様子を伝えて必要に応じて話し合い支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護利用について、包括支援センターと協力して家族や担当者とは何回も会議を行ったり、対象者の長期的なケアマネジメントについて相談を行っている。また、折に触れて状況報告を行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入所前のかかりつけ医にご家庭を通してコンタクトをとり、必要に応じて直接面談をして頂き連携を図っている。また、往診にきて頂いている医師と報告・相談を行い連携を図っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄の有無を尋ねるときは声のトーンを落としたり、誘導時には「ちょっと一緒に来ていただけますか」などの配慮を行っている。記録文中に他者が登場する場合はイニシャルとして個人が特定できないようにしている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	各個人それぞれに解る説明を行い、どうしたいのか、どれを選びたいのか自分で決められるように言葉や意思表示を引き出す働きかけを行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションの時間はあるが、参加したくない人にはその意思を尊重している。おやつ準備に取り組むひとや、ゲームを楽しむ人・個別リハビリを行う人など個々に合わせた活動の支援を大切にしている。入浴の時間は決まっているが、それ以外は個人のペースやタイミングを大切に支援を行っている。	○ 個人が行ってみたい所や買い物など行きたい時に対応できるように検討したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣服は好みの物を本人に伺いながら決めている。理容・美容は本人の望む店に連れて行って頂けるようにご家族にお願いしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやすじとりなどできる事を、快く行っていただけるようお願いしている。出来る人には後片付け、テーブル拭き、おしぼり配り等も行ってもらっています。一緒に食事をしながら味付けの評価や好み伺っている。食べたい物、好きな物を伺いメニューに加えている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	たばこは食後に、お酒は眠前になどの決め事をして、楽しんでいただいている。おやつや好みを伺い可能な限り希望に添うようにしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄周期にあわせたトイレへ誘導を行い、仕草や落ち着かないなどのサインを読み取り気持ちよく排泄ができるように支援を行っている。失敗の多い人には頻回トイレ誘導を行うなど失敗を減らす工夫や、それとなく声をかけてみるなど、自然に自身がトイレに向かえるように工夫している。	○	更に、データを分析的確なトイレ誘導を行いたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日・時間は決まっているが、一緒に入る人やそのタイミングは個々に配慮している。必要に応じて他の曜日にも対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間は決めてなく、習慣や一人ひとりの状況に合わせて個々に就寝して頂いている。落ち着いた気分で気持ちよく休まれるように夜(眠前)にゆっくりお茶の時間を行っている。寒いときは必要に応じてあんか・湯たんぽを入れている。また、室温調整にも配慮している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個人のできることに、できそうな事に応じて、また好みに応じて活動を行って頂いたり、自身で始めたカーテン開けなどの役割を継続できるように支援している。毎月ある行事や地域のお祭りに出かけたり、公園でおやつ会など気晴らしの支援に努めている。	○	更に、データを分析的確なトイレ誘導を行いたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解はもとお金を持っている人もいる。パン屋さんやきた時にはお金を直接使っていただいている。所持していない人にはその場でお金(立替)を渡し支払いを行う。支払いを行わないときは値段を伝えて了解を得て立替払を行っている。	○	好みのお店に職員が連れて行けるように検討したい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出かけた時は、職員が付き添い、できるだけ出かけるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	梅林に梅見に出かけたり、桜の花見、ポピー園、花菖蒲を見に行くなど四季にあわせてホームの行事として全員で出かけている。病院受診出かけた際やまたは、別に自宅や食事に出かけるなど家族とともに出かける機会を作っていたらいいよう家族にお願いをしている。	○	近所への外出への支援には応じているが、個別に本人の行きたい所への支援を検討したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話をかけ会話がスムーズにできるように支援している。毎月「ゆめだより」を発行(写真入りにて)し、様子や毎月の行事をお知らせし参加をお願いしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に来て頂けるようお願いし、面会があったときは、職員が間に入ってご本人の楽しい話を中心に日ごろの様子を離したり、会話が弾むように支援を行う。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。身体の安全の確保のため必要なときは同意書をいただくなどの手順が決められている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	無断で出掛けようとする人もいるが、ドアのチャイムで人の出入りを確認して、日中は鍵をかけないようにしている。居室には鍵はありません。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	記録等はホールで行い、常に各人の所在及び何をしているのかなどの様子の把握に努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品は利用者の入らない場所の戸棚、はさみはステーションの中など場所を決めて保管している。裁縫道具やはさみ・ナイフ・つめきり等を使う時は見守り、使用後は速やかにかたづけしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	常に利用者を見守り、危険の可能性のある人は職員間で声を掛け合い事故防止に努めている。また、毎日のミニカンファレンスや申し送り確認している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事故発生時の緊急マニュアルを作成し、マニュアルに基づいた対応に努めている。研修会に参加しホーム内でも実際に行き周知に努めている。応急手当・初期対応について日常的に指導・声かけを行っている。	○	緊急時に落ち着いて対応できるように定期的に訓練を行う。甦生法の訓練もホーム内で行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回の避難訓練を実施し(地震も含め)、年1回の消防署の立会い指導を受け更に、防火設備会社からの定期的な点検・指導訓練を行っている。近隣の人にはお願いしたり、道路愛護の参加や日常的な声掛けを行い地域との関係を築けるように努めている交番や消防署にも働きかけている。	○	地震の防災訓練の回数を増やす。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個々の状況から起き得るリスクについて、その都度家族と話し合い対策を立てている。ヒヤリハットから起こりうるリスクを考慮し圧迫感のない対策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックで体調の変化に気づき、異常があれば、看護師に相談し速やかにご家族連絡を取るとともに近くの病院に受診している。夜間でも看護職員が対応している。	○	夜間の対応体制作りを検討したい
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の薬の内容や注意事項を把握(処方薬の説明書や本で確認)して、確実に服用できるように細心の注意を払っている。服薬の変更は確実に伝わるように受診記録表を作成し、申し送りを徹底している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事は野菜を多くしたり、水分の調整や運動にも心がけ、毎日排便の把握を行い、医師と連携をとり緩下剤の調整を行い排便のコントロールに努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	スムーズにおおじて頂けない人もいるが、毎食後口腔衛生を実施している。夜間に義歯洗浄薬にて洗浄を実施している。歯科医師が時々訪問して、口腔内の検診を行い、必要に応じて義歯の修理・調整をして頂いている。ホーム内で出来ない治療は家族・歯科医師と連絡をとり受診に繋げている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分量を記録し、食が進まない時には体調など原因を明らかにしたり、食事の工夫をしたり、栄養価の高い食べやすい食事を提供している。季節や時期に配慮したメニューとし、また、個人の好みや食べたい物をメニューに加えている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の学習会に参加したり、資料を掲示したり、各職員で共有している。感染症防止のためのマニュアルを作成し感染防止の徹底を図っている。(おしぼり・汚染衣類の塩素消毒や足拭きマットは常に塩素を含ませでの使用・手指消毒など)		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒防止のための衛生管理の徹底を図っている。毎食後食器、調理用具の加熱消毒・塩素消毒実施。新鮮な食材を提供するため毎日食材購入している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前に花を植え、ベンチとよしずを置きくつろげる空間にしている。利用者と花の手入れを行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある環境を心掛け、季節の花を飾ったり、正月飾りや青竹の七夕飾り、クリスマスツリーなどの季節・時期に合わせた装飾を行い、静かな音楽を流したり心地よい環境づくりに努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれるような居場所として、ソファやマッサージチェア、カウンターなど提供している。それぞれ好きな場所でゆっくり過ごしている。利用者が帰った後のデイサービスホールで静かに職員と過ごしている人もいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家庭で使っていたものや、馴染みのものをそのまま使い、また、ご自身の作品を飾るなど居心地よく過ごせるよう配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、温度調節は温度計を確認してこまめに行い、また本人の好みに合わせた温度調節をしている。冬季は湿度の確保に配慮している。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで全て手すりが設置しており、手摺りに掴りながら歩行されている。建物内の機能を利用してホール歩行、手すりを利用して立位訓練など行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレを示す表示や、居室前の名札・顔写真を大きく貼る目立つ物を入り口に飾るなど本人が解る工夫をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外庭で、外気浴をしたり、お茶を飲んだり、歌を歌ったり、軽い体操をしたり、余暇を楽しんでいる。洗濯物を干したり、花の水やりなどの活動を楽しんでいる。	○	利用者が一人でも出たいときに、ベランダや庭にでれる工夫を考えたい

## V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

結芽の理念として「ゆとりをもって、安心できるケア」を中心に、入所により住む部屋は変わったが残り少なくなった人生をそれまで通りに一緒に歩んで行く「ご本人・ご家族・職員の三者一体のケア」をご理解していただけるように努めています。日常においては、お一人おひとりが自分らしく生活できるように、一日いちにちを有意義に過ごしていただけるように常に話しかけ、静的または運動的レクリエーションや生活活動を中心としたいろいろな活動を行っています。榛東村全体がなじみの場所でありなじみの人のいる所ですので、村の行事やいろいろな施設に出かけて、なじみの人たちと出会える機会を作り、それまでの生活（記録にある）の継続が出来るように努めています。